

平成 30 年度
関西における地域産業資源活用事業計画認定事業
(食品・観光案件) を対象とした新たな中小企業支援モデルの検討調査

報 告 書

<< 目 次 >>

事業の目的と内容	1P
1. 企業ヒアリング業務	
業務の背景	3P
調査対象	4P
企業アンケート調査.....	9P
企業ヒアリング調査.....	10P
取りまとめ	11P
2. セミナー（フォーラム）開催業務	
概要	17P
プログラム	18P
参加者リスト	21P
当日風景	21P
来場者アンケート.....	22P
広報	26P

平成 31 年 2 月
アルパック 株式会社地域計画建築研究所

事業目的

中小企業による地域産業資源を活用した事業活動を支援することにより、地域における中小企業の事業活動の促進を図り、もって地域経済の活性化を通じて国民経済の健全な発展に寄与することを目的として「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律」が平成19年6月29日付で施行された。

本法に基づき、中小企業者が事業計画を提出し、主務省庁により認定された場合に各種の支援措置を用意されているが、認定事業者との関係構築が十分ではなく、取組が求められている。

そこで本業務では、認定された事業計画を終了した事業者も含め、管内の地域産業資源を活用した事業活動を行う事業者を支援し、地域の活性化を図るため、近畿管内地域資源計画の認定事業者への継続的な情報提供や意見交換ができるネットワーク構築や、事業活動をフォローアップできる方法について、食品・観光分野を中心に検討した。

そして、セミナー（フォーラム）を開催し、認定事業者に対して、事業化促進に資する情報提供をするとともに、認定事業者間の交流の機会を創出した。

事業内容

■企業ヒアリング業務

近畿管内の地域資源計画の認定事業計画（観光・食品案件）72件に対してアンケートを実施し、その内の16社に対して現地ヒアリングを実施した。

事業者の現状や課題を聴取するなかで、当初目的にあった「関西地域資源ネットワーク（仮名）」の構築については、時期尚早と思われる内容もあり、近畿経済産業局との検討の結果、セミナー（フォーラム）を開催し、認定事業者に対して、事業化促進に資する情報提供をするとともに、認定事業者間の交流の機会を創出した。

■セミナー（フォーラム）の開催業務

地域経済の活性化と地域産業資源を活用した事業活動を支援するため、地域産業資源活用事業計画認定事業者（食品・観光案件）に対して、今後施策情報はじめ事業活動に有益な情報の提供や、当局・認定事業者・自治体・支援機関等の交流機会の創出等を図っていくことを目的に、地域ブランディング及びマーケティングに精通された講師を招聘し、「関西発！地域産業資源活用セミナー&交流会」を開催した。

1.

企業ヒアリング業務

平成 30 年度

関西における地域産業資源活用事業計画認定事業（食品・観光案件）
を対象とした新たな中小企業支援モデルの検討調査

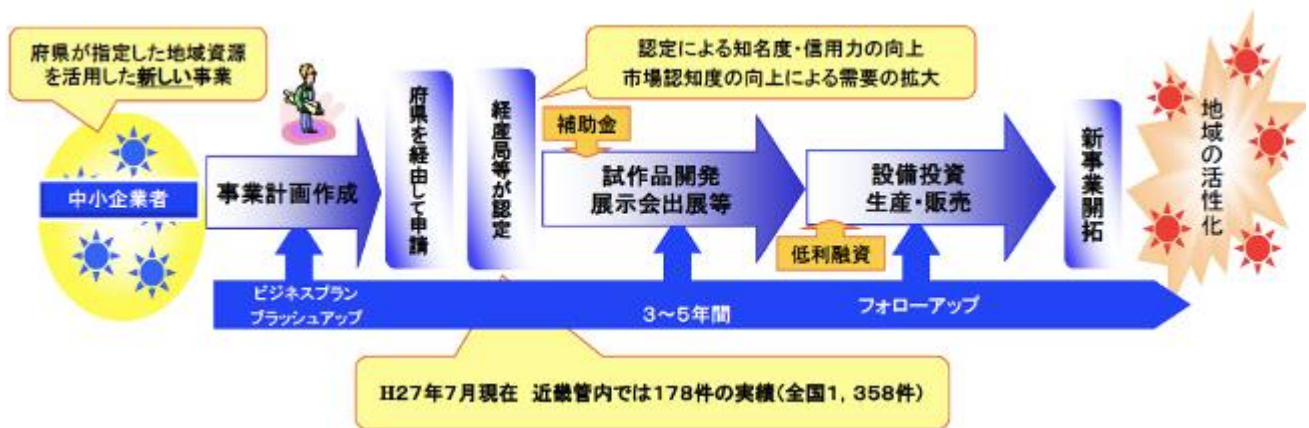
業務の背景

1. 地域資源活用事業の概要

地域の優れた資源（農林水産物、鉱工業品、観光資源等）を活用した新商品・新役務の開発や販路開拓の推進を目指し、「中小企業地域資源活用促進法」の認定を受けた中小企業者等に対し、試作品開発、展示会出展などの経費の一部を補助するもの。

認定を受けた計画には、補助金に加え、政府系金融機関による低利融資や信用保証の特例等の支援も用意されている。

地域資源活用事業支援 概要図



出典：近畿経済産業局ホームページ (<http://www.kansai.meti.go.jp/tiikisigen.html>)

2. 課題と成功へのカギ

これまでの認定事業の殆ど（95%超）が、個社の取組にとどまり、地域ブランドの創出に至っていない。また、売上も少額（約6割が1,000万円未満）のものが多く、販路開拓や情報発信を課題とする事業者が多い。そのため、地域経済への波及効果は限定的となっている。

一方、地域産業資源は全国津々浦々に豊富にあり（約14,000）、地域産業資源を活かしたビジネス発展の余地は大きい。

このため、「地域ブランド」創出のカギとして、下記4点が考えられる。

（1）地域を挙げた面的な取組

地域に密着し、中小企業・小規模事業者にとって最も身近な市町村を始め、地域の関係者が総力戦で「地域ブランド」作りを面的に取り組む体制が重要である。

（2）消費者志向

域内では当たり前でも、域外の視点から、その「地域ならではの」地域産業資源の魅力を捉え直し、外部人材の力も借りながら、ブランド力向上により販路拡大を目指す。

（3）地域の魅力で人を呼び込む

農産品や工芸品など、多様な地域産業資源の魅力で、地域に人を惹きつけ、域内消費につなげる。

（4）キーパーソンが存在

地域ブランド戦略を描き、商品開発から販売まで、関係者を巻き込みながら、地域の取組をリードするプロデューサー役の活躍が求められる。

調査対象

1. 概要

近畿管内の地域産業資源計画のうち、計画内容が「食品」「観光」¹に関する事業 75 件

No.	事業名	企業名	所在地	認定日	食品	観光
1	西播磨・但馬地域のゆずと茶で、高品質の国産ハーブ（無農薬一貫栽培）と組み合わせ、当社独自開発の発酵技術を使い新規のゆずハーブティーや緑茶エッセンシャルオイルなどを開発・販売する	株式会社香寺ハーブ・ガーデン	兵庫県姫路市	平成 19 年 10 月 12 日	○	
2	地元の良質・高級素材を使った究極の“（新）播州駄菓子”の製造販売事業	常盤堂製菓株式会社	兵庫県姫路市	平成 19 年 10 月 12 日	○	
3	「高品質加工マグロ（第三の鮪）」の加工及び販売	株式会社ヤマサ脇口水産	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町	平成 19 年 10 月 12 日	○	
4	淡路佐野運動公園とスポーツホテルのノウハウを活用した日本初、トップアスリート養成のためのスポーツコンシェルジュサービスと大会コーディネーターサービスの提供	株式会社アテナホテルズ	兵庫県淡路市	平成 19 年 12 月 14 日		○
5	紀州（田辺市・みなべ町）南高梅で「業界初の発酵醸造本梅酢」の開発・販売	株式会社濱田	和歌山県田辺市	平成 19 年 12 月 14 日	○	
6	福井米を用いた、業界初の健康志向米菓シリーズの、開発・新チャネル網での域外販売事業	株式会社吉村甘露堂	福井県大野市	平成 19 年 12 月 14 日	○	
7	京都市観光客向けマルベリー（桑）食品の開発、販売	株式会社おのみやす本舗	京都府京都市	平成 19 年 12 月 14 日	○	
8	滞在型観光客をターゲットとした「ほんものの京友禅染め浴衣生地作り体験」の開発と提供	有限会社丸益西村屋	京都府京都市	平成 20 年 2 月 15 日		○
9	漬物の技術を使った“業界初”の『漬物惣菜（漬物ばんざい）』の開発及び販売	堺共同漬物株式会社	大阪府堺市	平成 20 年 7 月 7 日	○	
10	暮らすように旅をする『京町家ステイ』と伝統文化研修『オリジン・アート・プログラム』の提供	株式会社庵	京都府京都市	平成 20 年 7 月 7 日		○
11	アテンドサービスを付加した「京町家ホームビジットプログラム」の開発と提供	有限会社ワックジャパン	京都府京都市	平成 20 年 7 月 7 日		○
12	兵庫米（特別栽培米）を加工した、家庭用炊飯器で炊ける「無洗米『健美の芽米（胚芽付白米・胚芽付玄米）』の開発及び販売	株式会社一蔵	兵庫県加古川市	平成 20 年 7 月 7 日	○	
13	銀の馬車道プロジェクトに因んだ体験型産業観光「いぶし瓦の技術を活かした体験プログラム」の開発と提供	光洋製瓦株式会社	兵庫県姫路市	平成 20 年 7 月 7 日		○
14	兵庫米と丹波黒大豆・丹波大納言小豆・桃・ブルーベリーを使った“業界初の半熟 2 段階発酵製法”による『女性好みの美味ほろ酔いリカー』の開発及び販売	株式会社西山酒造場	兵庫県丹波市	平成 20 年 7 月 7 日	○	
15	クズと大和茶を活用した“業界初”の『葛のジュレ・リキュール』の開発及び販売	株式会社北岡本店	奈良県吉野町	平成 20 年 7 月 7 日	○	
16	紀州特産のタイ、サバ、アジを使った“業界初”の『美味しさ 2 段階重ねの美味絶妙あじ鮪（サンドイッチ鮪）』の開発及び販売	株式会社笹一	和歌山県和歌山市	平成 20 年 7 月 7 日	○	
17	地域公共交通網と観光交通サービスの有機的連携による「丹後・エコ旅周遊自在サービス」とそれを付加した「テーマ型ニューツーリズム商品」の開発・販売	北近畿タンゴ鉄道株式会社	京都府福知山市	平成 20 年 10 月 29 日		○
18	新丹波黒の栄養成分豊かな漬煮汁を使った「新食感・京・丹波スイーツ」の開発及び販売	農事組合法人グリーン日吉	京都府南丹市	平成 20 年 10 月 29 日	○	
19	紙器の技術を活用し昆布と野菜等を素材にした業界初「可食盛り付けカップ」の開発及び販売	木村アルミ箔株式会社	大阪府大阪市	平成 20 年 10 月 29 日	○	

¹ 計画内容から近畿経済産業局が「食品」または「観光」に分類。

No.	事業名	企業名	所在地	認定日	食品	観光
20	淡路の地域資源を使った”高温高圧加熱殺菌調理法”による「調理済・即席炊込みご飯」の開発及び販売	有限会社光輝	兵庫県 南あわじ市	平成20年 10月29日	○	
21	京都の地域資源農産物を使った“液化もろみ発酵製法による”業界初の京野菜リキュールの開発・販売	キンシ正宗株式会社	京都府 京都市	平成21年 2月12日	○	
22	伊弉諾神宮と共生した「夫婦の郷”淡路”絆ツーリズムプログラム」と観光関連商品の開発・販売	ウエストコーストぐんげ商店街協同組合	兵庫県 淡路市	平成21年 2月12日		○
23	ナラノヤエザクラの自然酵母を利用した清酒の開発、製造および販売	株式会社今西清兵衛商店	奈良県 奈良市	平成21年 2月12日	○	
24	ゆずの皮入りすし酢（紀州の食文化）及びゆず加工品の開発・販売	株式会社九重雑賀	和歌山県 紀の川市	平成21年 2月12日	○	
25	自然回帰農法による「朝宮茶」を使用した信楽高原紅茶の開発と販売	かたぎ古香園	滋賀県 甲賀市	平成21年 7月1日	○	
26	近江米を使った脱脂米糠（スフェロゾーム高含有）の開発・販売	園田商事株式会社	滋賀県 湖南市	平成21年 7月1日	○	
27	山陰海岸の自然美・産業・食文化を活かした「美と技と味の遺産めぐりプログラム」と連泊者向け「体験周遊バスサービス」および関連旅行商品の開発・提供	株式会社香住観光公社	兵庫県 美方郡 香美町	平成21年 7月1日		○
28	神戸産果物を使用した伝統手法による国産初のゼリーの開発・販売	株式会社樽正本店	兵庫県 神戸市	平成21年 7月1日	○	
29	「救おう千年の桜プロジェクト」に因む吉野山の桜再生プログラムを付加したエコカルチャースクール「吉野山さくら学級」と関連観光商品の開発・販売	太鼓判	奈良県 吉野郡 吉野町	平成21年 7月1日		○
30	雄琴温泉の効能と琵琶湖畔の自然、歴史、文化を活かした通い型湯治サービス「おごとヘルスツーリズム」の開発・提供	おごと温泉旅館協同組合	滋賀県 大津市	平成21年 10月28日		○
31	訪日外国人をターゲットとした京都の舞妓・芸妓による京舞と京料理を楽しむ「京料理と舞妓のタベ」の開発・販売	株式会社畑中	京都府 京都市	平成21年 10月28日		○
32	柏原ワインの技術を活用したカジュアルに飲める《国産低アルコール発泡性果実酒》の製造販売	カタシモワインフード株式会社	大阪府 柏原市	平成21年 10月28日	○	
33	地域資源の兵庫米、地域特産物の海の幸・山の幸を使った新しい洋食風スナック菓子の開発・販売	株式会社伍魚福	兵庫県 神戸市	平成21年 10月28日	○	
34	飛鳥の棚田と神奈備の郷、明日香村の自然、伝統的生活文化を活用したエコツーリズム「飛鳥帰農塾プログラム」と関連旅行サービスの開発と提供	株式会社島田工務店	奈良県 高市郡 明日香村	平成22年 2月16日		○
35	八千代で栽培した兵庫米と兵庫産大豆を使った「いなりご飯（寿司、おこわ、炊き込み）」の開発と販売	有限会社忠正商店	兵庫県 多可郡 多可町	平成22年 2月16日	○	
36	淡路島伝統の手延素麺技法を活用した「和麺パスタ」及び「サラダ麺」の開発と販売	平野製麺所	兵庫県 南あわじ市	平成22年 6月15日	○	
37	紀州有田の柑橘類の皮を活用したピール（果皮調整品）等の開発・製造と販売	株式会社伊藤農園	和歌山県 有田市	平成22年 6月15日	○	
38	業界初もち米発酵甘味料を使用した、大阪みかんのマーマレード及びジャムとフリーズドライ商品の開発と販売	株式会社サカグチ・コーポレーション	大阪府 富田林市	平成23年 2月8日	○	
39	信楽焼の技術と窯元の暮らしを活かした体験型観光「創造と癒しの郷SHIGARAKIプログラム」の開発・提供	有限会社小川亭	滋賀県 甲賀市	平成23年 9月30日		○
40	日本酒のふるさと奈良で地酒造りと伝統文化を楽しむ「日本酒のふるさと三輪ツーリズム」の開発・提供	今西酒造株式会社	奈良県 桜井市	平成24年 2月3日		○
41	京都の伝統的甘口清酒製造法である麴糖化技術を活用した天然糖化飲料及び食品の開発・販売	佐々木酒造株式会社	京都府 京都市	平成24年 6月20日	○	
42	滋賀県産大豆100%による「ゆば」と製造過程で得られる「凝縮豆乳」と「おから」を使用した「ゆば入り豆乳おから団子」と応用商品の開発と販売	株式会社比叡ゆば本舗ゆば八	滋賀県 大津市	平成24年 10月1日	○	
43	田辺湾の自然を生かし海洋生物とふれあう体験「南紀	南紀みらい株式会	和歌山県	平成24年		○

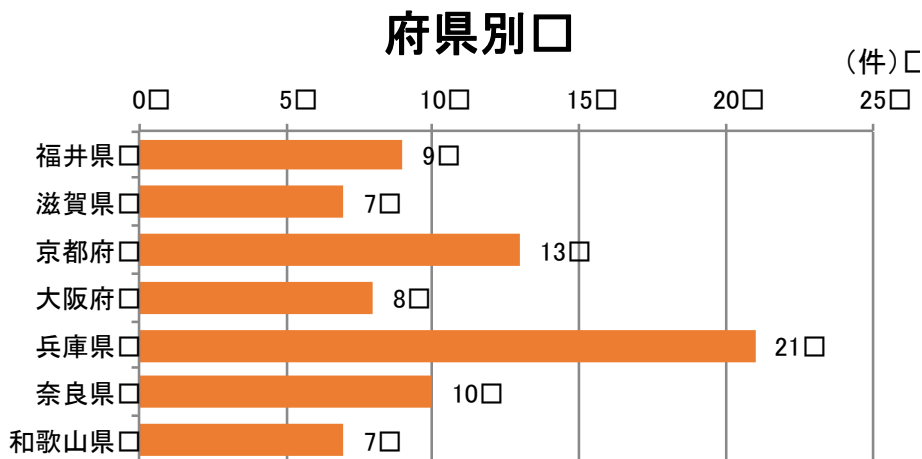
No.	事業名	企業名	所在地	認定日	食品	観光
	くろしお・癒しと学びの海公園」の開発・提供	社	田辺市	10月1日		
44	紀州みなべ産の完熟南高梅を使用した、新製法による塩分0%の梅製品の開発・製造・販売	株式会社佐々木農園	和歌山県日高郡みなべ町	平成24年10月1日	○	
45	着地型観光「水と生きる近江高島 知的探求心とパワーチャージの旅」の開発・提供	有限会社白浜荘	滋賀県高島市	平成25年7月8日		○
46	京都府立保津峡自然公園を馬車で巡る観光サービスの開発・販路開拓	株式会社京馬車	京都府亀岡市	平成25年10月16日		○
47	琵琶湖ブランドを活用したオリジナルウェディングサービスの開発・販売・提供	株式会社ホロニック	滋賀県守山市	平成26年2月3日		○
48	未知なる海の京都・丹後海岸の魅力をマイスターが直伝「丹後マイスターツーリズム」の開発・提供	株式会社とと屋	京都府京丹後市	平成26年2月3日		○
49	福井産米を活用した各種酒類製品の企画・製造・販売事業	田嶋酒造株式会社	福井県福井市	平成26年7月7日	○	
50	福井県産そば粉を活用したガレット用そば粉の開発・製造および販路開拓	株式会社カガセイフン	福井県福井市	平成26年10月15日	○	
51	水なすをはじめとする泉州野菜と大阪府産果実を使用したピクルスの開発・製造・販売	NSW株式会社	大阪府泉佐野市	平成26年10月15日	○	
52	但馬牧場公園を活かした自然と湯村温泉と食で訴求する外国人観光客向けアクティビティの開発・提供	株式会社湯村温泉愛宕山観光	兵庫県美方郡新温泉町	平成26年10月15日		○
53	世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を活用したインバウンド観光事業「吉野大峯スピリチュアルツーリズム」の開発・提供	吉野大峯ケーブル自動車株式会社	奈良県吉野郡吉野町	平成26年10月15日		○
54	速醸技術を活用した魚醤油をはじめとする調味料の開発・製造および販売	株式会社室次	福井県福井市	平成27年2月2日	○	
55	訪日外国人観光客向け着地型体験観光「ビジット大阪・おいでやすツーリズム」の開発・提供	株式会社インプリージョン	大阪府大阪市	平成27年7月6日		○
56	福井県産米粉100%を使用した温度によって食感が変化する冷凍カステラの開発・販路開拓	株式会社竹内菓子舗	福井県福井市	平成27年10月21日	○	
57	但馬産のホタルイカ等の魚介を活用した天然醸造方式による安全・安心な魚醤の開発・製造・販売	大徳醤油株式会社	兵庫県養父市	平成27年10月21日	○	
58	兵庫県立村岡高等学校との産学連携による体験交流型観光「香美町冒険学習旅行」の開発・提供	株式会社西村工務店 旅のふあくとりーSKI BOX 旅館なかや	兵庫県香美町	平成27年10月21日		○
59	柿・梅などの果実の旨みを引き出した各種加工商品の開発・生産・販売	株式会社堀内果実園	奈良県五條市	平成27年10月21日	○	
60	かやぶき屋根の建築技術と美山町の里山文化を活かした「京の里・かやぶきステイ」	ニシオサブライズ株式会社	京都府南丹市	平成28年2月3日		○
61	千日前道具屋筋商店街の道具や職人技術を学ぶ「ものづくり体験ツアー」の開発・販売	株式会社デザインポケット	大阪府大阪市	平成28年2月3日		○
62	吉野本葛でつくる新食感・洋感覚の植物性デザートの開発・製造・販売	株式会社吉田屋	奈良県下市町	平成28年2月3日	○	
63	京都丹後鉄道で巡る「丹鉄旅育」と「訪日旅行者向け体験型鉄道旅行」サービスの開発・提供	WILLER TRAINS 株式会社 WILLER TRAVEL 株式会社	京都府宮津市	平成28年10月14日		○
64	福井県産小麦（県大3号通称：ふくこむぎ）の特長を生かした菓子・パン製品の商品開発及び販売	株式会社オーカワパン	福井県坂井市	平成29年2月3日	○	
65	神戸フルーツフラワーパークを活用した食・農・文化の体験交流サービス創出	株式会社北神地域振興	兵庫県神戸市	平成29年2月3日		○
66	大和茶を活用した加工品の開発とブランド化による全国販売の実施	有限会社吉野路大淀振興センター	奈良県大淀町	平成29年2月3日	○	
67	地域産業資源である鯖江市河和田うるしの里の漆器産業集積を活かした産業観光事業	合同会社ツギ	福井県鯖江市	平成29年8月10日		○

No.	事業名	企業名	所在地	認定日	食品	観光
68	キムチ調味液を活用した調理食品及び調味料の開発・販売	株式会社西友フーズ	大阪府 大阪市	平成29年 8月10日	○	
69	但馬等県産・国産の農林水産物を原料にした洋風（万能）調味料の開発と販売	株式会社トキワ 株式会社パルシーズン	兵庫県 香美町	平成29年 8月10日	○	
70	福井が誇る味を組み合わせで最高レベルのUMAMI（うま味）を醸し出す万能調味料の開発販売	株式会社エムトリップコーポレーション 株式会社室次	福井県 福井市	平成30年 2月9日	○	
71	地域産業資源であるひな人形、大野城下町を活用したひな人形展示をめぐる大野城下町回遊観光事業	有限会社オモチャのやまだ	福井県 大野市	平成30年 2月9日		○
72	「ASAGO 大 学」と連携した心身浄化の旅「Asago Wellness Tourism」の開発・提供	有限会社いけがわ アドバンス株式会社 株式会社フレッシュあさご 有限会社高本農場	兵庫県 朝来市	平成30年 2月9日		○
73	うずしお温泉のとろみのある泉質と旬の海の幸等を活用した自然体験型宿泊プログラムの開発・提供	株式会社いづみ丸 有限会社うめ丸	兵庫県 南あわじ市	平成30年 2月9日		○
74	淡路島の豊富な水産資源を活かした加工品のブランド化による全国展開の実施	株式会社淡路観光開発公社	兵庫県 淡路市	平成30年 2月9日	○	
75	世界遺産のまち斑鳩町に滞在する「おとなの修学旅行 Educational Travel」の開発・提供	斑鳩産業株式会社 株式会社愛和 オレンジの庭 ガレージハーフウェイ	奈良県 斑鳩町	平成30年 2月9日		○

2. 調査対象の特徴

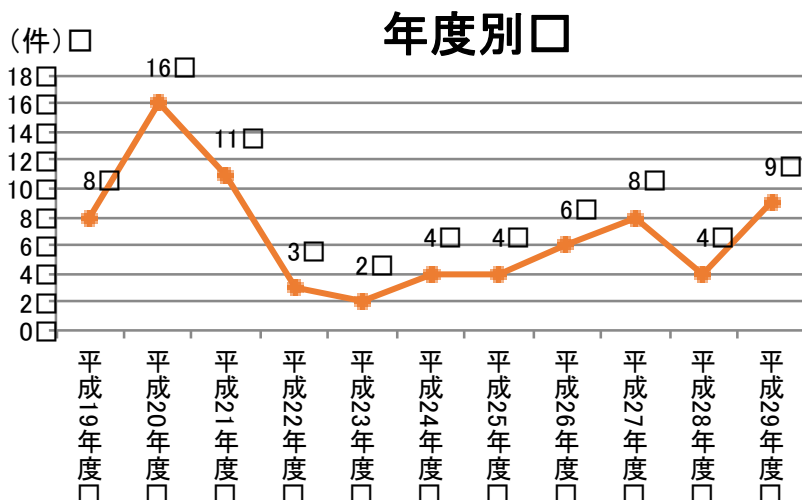
(1) 所在地

「兵庫県」が21件で最も多く、続いて「京都府」が13件となっている。



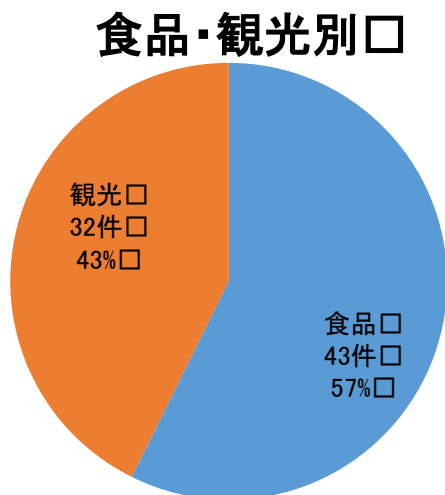
(2) 認定日

平成 20 年度をピークに減少し、平成 23 年度以降は緩やかに増加傾向にある。



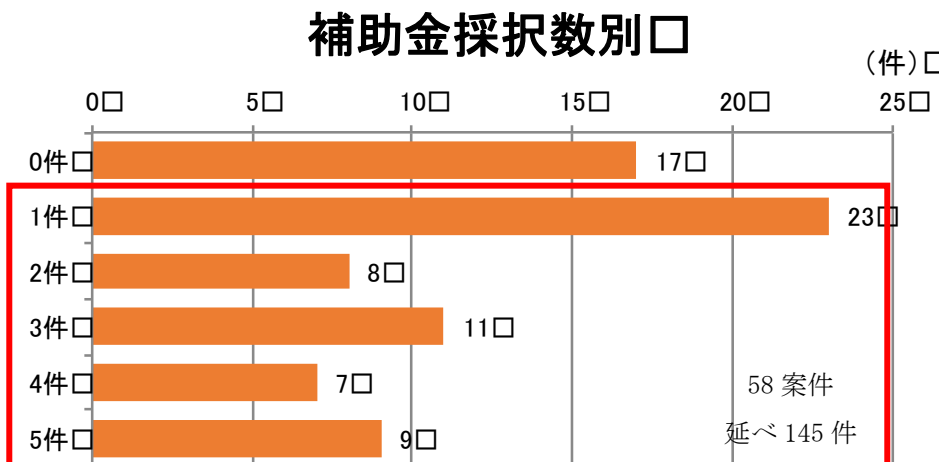
(3) 分野

「食品」が 43 件であり、57%を占めている。



(4) 補助金の採択状況

補助金を採択したことがある事業計画は 58 案件あり、延べ 145 件の補助金を採択している。



企業アンケート調査

1. 調査概要

(1) 調査手法

WEB アンケートによる送付・回収

※マクロミル社 無料セルフアンケート ASP

『Questant (クエスタント)』を利用

(2) 調査期間

平成 30 年 10 月 12 日(金)～12 月 18 日(火)

(3) 調査対象

事業計画 75 件のうち、廃業・行政処分 3 件を除く、72 件

(4) 調査項目

地域産業資源活用事業計画認定事業者（食品・観光案件）に対するアンケート調査

Q1. 地域産業資源活用事業計画（以下、「地域資源計画」）で事業化に取り組み商品・サービスのPRポイントやターゲット市場について伺います。調査の認定内容について、必要事項をご記入ください。

商品・サービスのPRポイント

〇文字
ターゲットとしている市場（国・地域）

〇文字
ターゲットとしている市場（店舗・業種）

〇文字
ターゲットとしている市場（その他）

Q2. 地域資源計画の進捗状況について伺います。該当する番号一つを選んでください。複数に該当した事業でも、過去に廃止された場合は「1」を選んでください。

1. 既に事業として立ち（閉）まっている

2. 廃業・廃止化・事業化を予定

3. 試作品を開発中

4. 試作品が完成してテスト販売や商品化の進捗

5. 商品等が完成し販路開拓中

項目	設問
事業内容と進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ○商品・サービスのPR ポイント ○ターゲットとしている市場（国・地域、顧客階層等） ○地域資源計画の進捗状況 ○事業化に成功された要因 ○自社の成功事例を紹介する際のエピソード ○直近1年間の年間売上額（国内・海外の内訳） ○3年後の目標売上額（年間） ○障壁となっている要因 ○事業化に至らなかったものの自社にとってメリットがあったこと
PR	<ul style="list-style-type: none"> ○商品・サービスの広報戦略 ○商品・サービスのPR 希望の有無 ○PR 用に案内することができる媒体の有無
【食品】他業者との連携、認証取得、海外販路開拓等	<ul style="list-style-type: none"> ○他の食品事業者の成功事例への関心 ○他の事業者との連携希望 ○食品の安全にかかる認証（HACCP 等）の取得 ○食品の安全にかかる認証を取得する上での課題 ○海外販路開拓の希望 ○海外販路開拓に取り組む上での課題
【観光】他業者との連携、インバウンド対応等	<ul style="list-style-type: none"> ○他の観光事業者の成功事例への関心 ○他の事業者との連携希望 ○インバウンドに対応するために実施していること ○インバウンドに対応する上での課題 ○地域資源活用事業を実施する上で、苦労した点
事業推進上の課題と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ○解決すべき課題（人材の確保、社内体制の整備、生産体制の整備、新商品の開発、マーケティングや販路開拓、広報戦略、海外展開、資金の確保・調達、特許等の知財戦略） ○特に重視すべき課題 ○日頃付き合いのある支援機関（銀行含む） ○「SDGs（持続可能な開発目標）」に対する自社の認知度・取組状況 ○経済産業省の施策に対するご意見 ○「ネットワークフォーラム（仮称）」への現時点での参加の意向 ○認定事業者支援として近畿経済産業局に取り組んでほしいこと

(5) 回収状況

送付数	回収数	回収率
72 件	48 件	66.7%

企業ヒアリング調査

1. 調査概要

(1) 調査手法

訪問による対面ヒアリング調査

(2) 調査期間

平成 30 年 11 月 7 日(火)～平成 31 年 1 月 23 日(水)

(3) 調査対象

事業計画 75 件のうち、地域ブランド創出の観点から 16 件を選定（食品 9 件、観光 7 件）

(4) 調査項目

下記の企業アンケート調査項目について、深掘りを行う。

- 事業内容と進捗状況（ターゲット市場、成功要因等）
- PR（広報戦略、PR の希望、PR 媒体等）
- 【食品】他業者との連携、認証取得、海外販路開拓等
- 【観光】他業者との連携、インバウンド対応等
- 事業推進上の課題と今後の展望

1. 関西における地域産業資源活用事業計画認定事業（食品・観光案件）の現状と課題

（1）事業内容と進捗状況

①ターゲット市場

国内だけでなく海外も含めて取り組んでいる事業者が約4割を占めており、特に観光案件は海外志向が強い。海外では半数がアジア市場を考えている。

- 観光案件では、地域産業資源を外国人向けにブラッシュアップすることで、欧米やアジアの富裕層の獲得につなげている事例もある。
- 食品案件では、国内では知られている地域産業資源であっても、海外での知名度は低いため、海外市場についてはマーケティング調査から取り組んでいる。一方、海外ニーズに応じて開発した商品を国内へ“逆輸入”し販路開拓に取り組む事例もある。

②事業化の進捗状況

約7割の事業者が既に事業として成立している（売上が立っている）。事業化に成功した要因としては、約8割が活用した地域産業資源が良かったことを挙げており、また約5割は補助金の交付があったことを挙げています。ただし、全事業者の約6割は地域産業資源計画の商品・サービスの年間売上額が全体の20%未満に留まっている。

- 補助金については事業者負担も求められることから、必要最低限の交付申請に留めているところもある。
- 補助金が採択されなかった事業者については、自力での事業化に取り組んでいるものの、事業化スピードの遅れを挙げる事例もある。
- 地域産業資源計画の商品・サービスの年間売上額は、年間売上額全体と比べて少ないものの、新たな事業の柱として育っている事例もある。

③未事業化の要因

約3割の事業者が未事業化（開発・商品化・事業化を断念、試作品を開発中、試作品が完成してテスト販売や商品化の途上、商品等が完成し販路開拓中）となっている。事業化の障壁となっている要因としては、未事業化と回答のあった事業者のうち約4割が試作品開発の遅れを、約3割が事業推進に係る社内体制整備の問題を挙げている。

④PR

約9割の事業者は自社ホームページを持っている。また、約8割の事業者が自社ホームページや通販サイトにて商品を販売している。

半数の事業者がメディア（新聞、TV、雑誌、web等）を活用し、自社からの積極的な情報発信に取り組んだり、良い商品づくりをすることによる、口コミ（SNS含む）での情報発信に期待をしている。

- 認定事業者には中小企業や小規模事業者が多く、営業に資源を投入できないことから、自社ホームページや通販サイトを積極的に活用している事例が多い。売上の多くをホームページが占めている事例もある。
- メディアに取り上げてもらうため、積極的にコンテスト等での賞獲得に取り組む事例がある。また、著名人との人脈を活かした話題づくりに取り組む事例もある。

- メディア等と比べて、自社ホームページやロコミでの情報発信のほうが、費用対効果や消費者の反応が見えやすいという意見もある。

(2) 食品案件の実態

①他業者との連携

約 8 割の事業者が他の食品事業者の成功事例への関心があり、特に近隣の食品事業者との連携を希望している。

- 特に海外販路開拓では、貿易手続きの煩雑さや費用負担、賞味期限の延長等の技術的な課題などから、他の食品事業者と連携して海外販路開拓に取り組みたいという意見もある。

②食品の安全

約 8 割の事業者が食品の安全にかかる認証（HACCP 等）を取得しておらず、体制構築や費用が課題となっている。

- 認証を取得していないものの、顧客に求められる品質は守っており、必要に応じて対応できるようにしている事例もある。
- 将来的な工場の新設・増設の際に認証取得に取り組む計画を立てている事例もある。

③海外販路開拓

海外販路開拓を希望する事業者は約 6 割となっている。また、海外販路開拓に取り組む上での課題として、約 7 割が言語対応、約 4 割が販路開拓・貿易手続きを挙げている。

(3) 観光案件の実態

①他業者との連携

約 8 割の事業者が他の観光事業者の成功事例への関心があり、特に近隣に限らず観光事業者との連携を希望している。

- 国内に長期滞在するインバウンド客向けに、連携してツアー造成に取り組むたいとの意見がある。

②インバウンド対応

複数言語対応をしている事業者が約 4 割、インバウンド向けの観光ルートを作成している事業者が約 3 割となっている。一方、インバウンド対応の課題としては、約 7 割が海外への PR と言語対応を挙げている。

- 言語対応の他、風習やムスリム対応など、積極的にインバウンド対応に取り組む事例もある。

(4) 事業推進上の課題と今後の展望

①解決すべき課題

人材の確保、社内体制の整備、マーケティングや販路開拓、広報戦略の 4 点が喫緊の課題となっている。また、食品案件では生産体制の整備も課題として挙げられている。特許等の知財戦略については、まだ課題として認識されていない。

②地域連携の実態

地方銀行や信用金庫を中心に、支援機関と連携として事業に取り組んでいる。一方で、地域や行政との協力・連携に苦慮している事業者もいる。

2. 地域産業資源活用事業計画認定事業（食品・観光案件）の事業化に向けたポイント

（1）地域産業資源の特性や自社の強みの認識

①地域産業資源の特性の把握

地域産業資源の特性を定義し、特性を評価してくれる顧客や消費者の獲得に取り組んでいる。

②中小企業・小規模事業者の強みの認識

多品種少量生産で小回りが効くことが中小企業や小規模事業者の強みであり、これらを活かせるニッチマーケットの獲得に取り組んでいる。

（2）試行錯誤を通じた国内外マーケットの積極的な獲得

①高付加価値化による商品単価の上昇

コスト競争は行わず、商品・サービスの高付加価値化に取り組み、商品単価を上げる努力をしている。

②トライ・アンド・エラーによるマーケットの模索

商品・サービスの開発・改善を繰り返しながら、“売れる”マーケットを常に模索している。

③海外市場の積極的な開拓

将来的に縮小する国内市場だけでなく、成長する海外市場の開拓に積極的に取り組んでいる。

④効果的な営業・PR手法の実施

自社ホームページやECサイトによる商品販売、著名人（インフルエンサー）との人脈の活用、ファムトリップ（現地視察ツアー）の受入、消費者と双方向でやり取りできるメディアの活用（SNSやキッチンカー等）など、少人数でも効果のある営業・PR手法に取り組んでいる。

（3）生産者や支援機関とのパートナーシップの構築

①生産者との良好な関係の構築

地域産業資源を生み出す生産者と良好な関係を構築し、人口減少や少子高齢化の問題にも取り組んでいる。

②外部支援の積極的な活用

中小企業基盤整備機構や大学、産業支援機関、地方銀行や信用金庫、士業等の外部支援を積極的に活用し、体制強化に努めている。

③課題や成果の見える化による地域とのネットワーク構築

地域課題の共有による危機感の醸成や、地域産業資源を活用した商品・サービスの売上等の見える化に取り組むことで、地域の事業者のやる気を創出し、地域ネットワークを構築している。

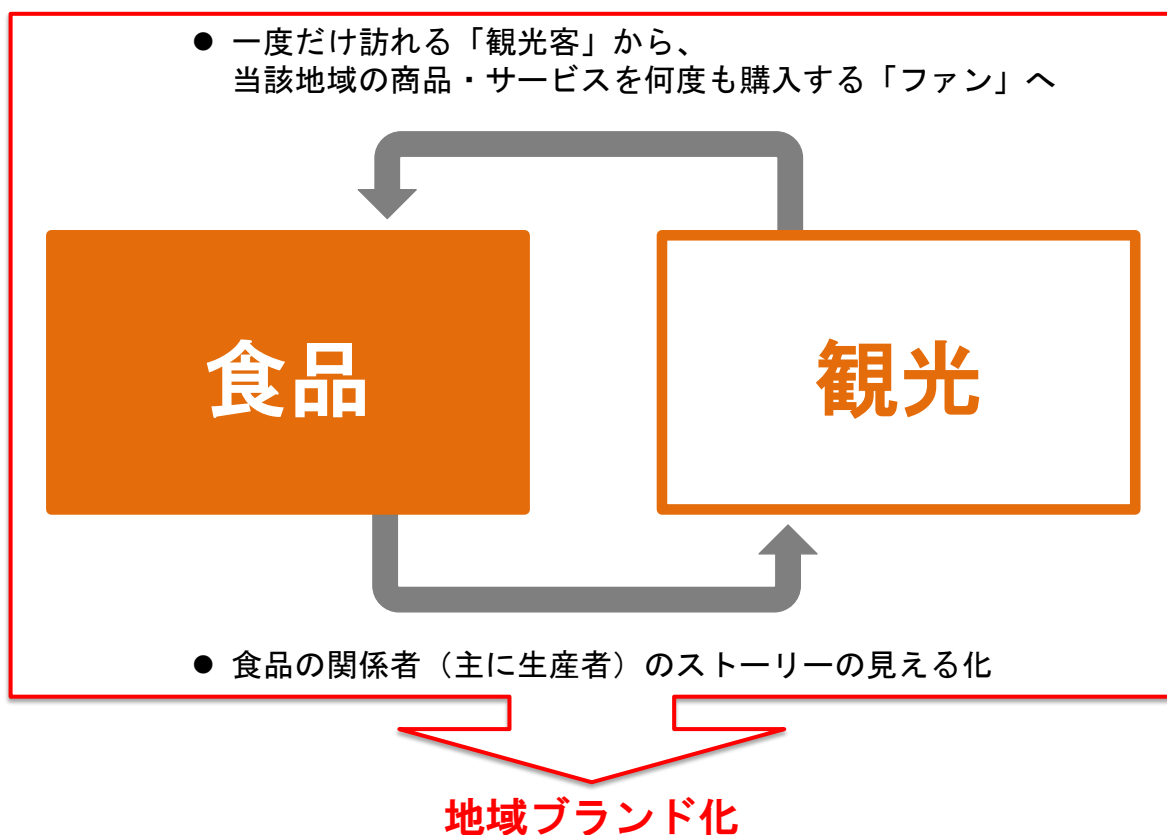
3. 今後の展望

地域産業資源活用事業の拡大に向けて、個社による取り組みから、面的な取り組みへと移行していく必要がある。そのためには、地域の事業者を巻き込み、協力・連携体制を構築しながら、地域が一丸となって取り組むことが求められる。

面的な取り組みを実現するためには、食品案件の観光化（食品案件に取り組む地域への観光客の誘客）と、観光案件の食品化（観光案件に取り組む地域における商品・サービスの開発及び販売）により、食品案件と観光案件の好循環を形成することで、地域ブランドを創出していくことが大切と考えられる。

また、食品事業者同士や観光事業者同士の連携を促すことで、新たな商品・サービスの開発や、パッケージとしての販路開拓等の機会を創出することも大切と考えられるため、今後も定期的に事業者が交流する場の提供が求められる。

認定事業者には、地域ブランド創出に向けた中核事業者として、地域を牽引していく役割が期待される。



2.

セミナー（フォーラム）の開催業務

平成 30 年度

関西における地域産業資源活用事業計画認定事業（食品・観光案件）
を対象とした新たな中小企業支援モデルの検討調査

概要

■タイトル：「関西発！地域産業資源活用セミナー＆交流会」～小さな地域資源を大きなブランドに～

■目的：近畿経済産業局では、地域経済の活性化と地域産業資源を活用した事業活動を支援するため、地域産業資源活用事業計画認定事業者（食品・観光案件）に対して、今後施策情報はじめ事業活動に有益な情報の提供や、当局・認定事業者・自治体・支援機関等の交流機会の創出等を図っていくことを目的に、その第一弾として地域ブランディング及びマーケティングに精通された講師を招聘し、「関西発！地域産業資源活用セミナー＆交流会」を開催した。
①事業促進に資する情報提供（第1部：基調講演、事例発表、施策説明）
②参加者間の交流機会の創出（第2部：交流会）

■日時：2019年2月5日（火）
（第1部・本会） 13：00～16：45（受付開始 12:30～）
（第2部・交流会） 17：15～18：45

■会場：大阪産業創造館
（第1部・本会） 4F イベントホール
（第2部・交流会） 16F レストラン「和献洋彩 にん・にん & 中華菜館 桃莉」

■参加者：56名

■対象者：①近畿地域を中心とした地域産業資源活用事業計画認定事業者
②近畿地域を中心とした地域産業資源活用事業に関心のある事業者
③産業支援機関等

2. プログラム（概略）

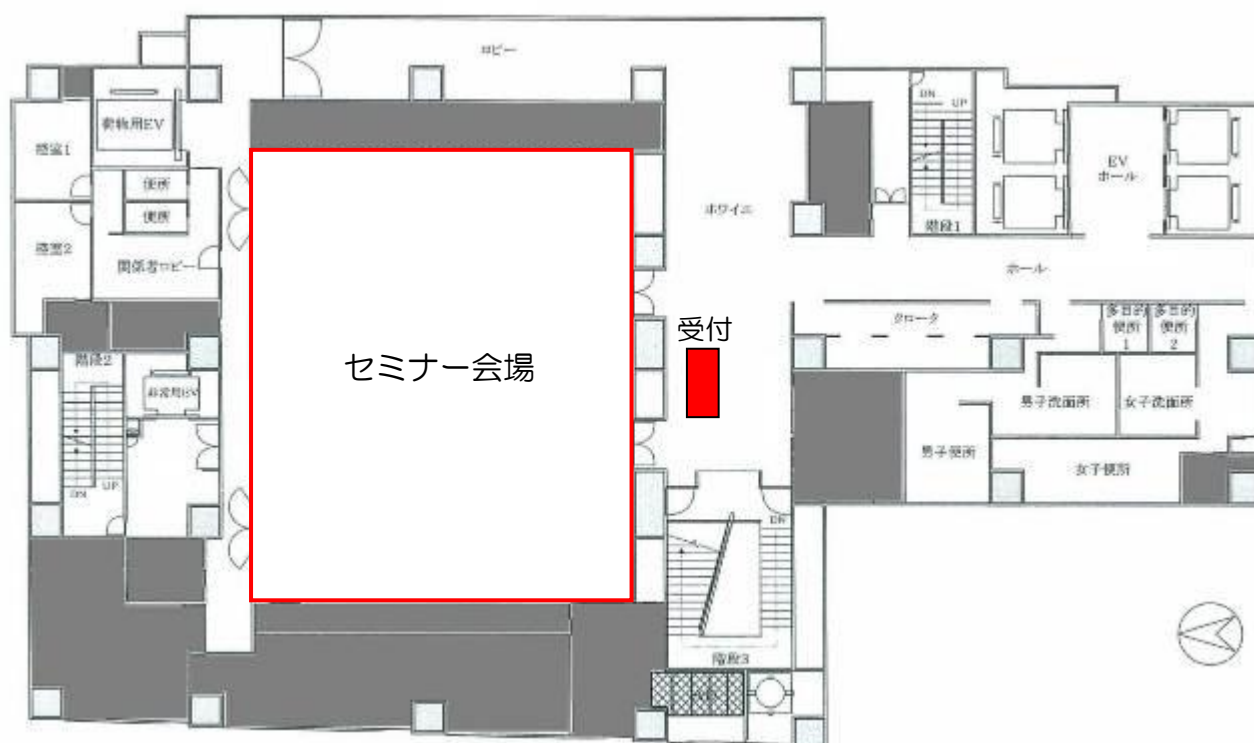
【第1部：セミナー】

- (1) 開会挨拶
- (2) 基調講演
- (3) 事例発表（食品2者、観光2者）
- (4) パネルディスカッション（発表者4者＋モデレータ（基調講演））
- (5) 施策説明

【第2部：交流会】

- (6) 交流会（会費制・立食式）

■会場図



プログラム

■プログラム（詳細）13:00～18:45

時 間		内 容
第1部・セミナー	13:00-13:05	5分 (1) 主催者挨拶 (5分) 志賀 英晃 ／近畿経済産業局 産業部長
	13:05-13:45	40分 (2) 基調講演 (40分) テーマ：「地域ブランドのつくり方とマーケティング」 ～人口7,300人のまちのブランド化挑戦～ 講 師：青谷 実知代 氏 ／神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 都市生活学科 准教授
	13:45-14:45	60分 (3) 事例発表 (60分) (4者×15分) 発表①浄慶 耕造 氏 (食品) ／大徳醤油株式会社 代表取締役会長 発表②伊藤 彰浩 氏 (食品) ／株式会社伊藤農園 専務取締役 発表③池田 香代子 氏 (観光) ／株式会社とと屋 女将 発表④井上 雅仁 氏 (観光) ／斑鳩産業株式会社 代表取締役社長
	14:45-14:55	10分 休 憩
	14:55-15:45	50分 (4) パネルディスカッション (50分) ・発表企業4者 (パネリスト) + モデレータ / 40分 ・モデレータ：基調講演講師 (10分)
	15:45-16:45	60分 (5) 施策説明 (60分) 説明①太田 文隆 (10分) ／近畿農政局 経営・事業支援部 地域連携課 輸出証明支援係長 説明②井澤 智義 (10分) (←当日欠席) ／近畿運輸局 観光部 観光地域振興課 課長補佐 説明③増井 浩行 (15分) ／近畿経済産業局 産業部 産業振興室 調査官 説明④坂本 りっか (15分) ／近畿経済産業局 通商部 国際事業課 国際交流調整官 ・質疑 (10分)
	(移 動)	
第2部・交流会	17:15	90分 (6) 交流会 (会費制・立食形式)
	18:45	- 終了

プログラム

■プログラム詳細

(1) 開会

志賀 英晃 / 近畿経済産業局 産業部長

(2) 基調講演

テーマ：『地域ブランドの作り方とマーケティング』 ～人口 7,300 人のまちのブランド化挑戦～

講師：青谷 実知代 氏 / 神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 都市生活学科 准教授

【内容】

日本各地で「食品」や「観光」などの地域産業資源を活用した地域ブランドの立ち上げやブランド化のプロデュース・研究を専門とし、特に「ブランド・マーケティング」などの視点から、多数の地域ブランドを成功に導く青谷氏。今回の基調講演では、マーケティング手法を取り入れた地域ブランド成功の秘訣やその成功事例等を踏まえ、多彩なご経験やノウハウについてご講演いただいた。

【経歴】

奈良女子大学人間文化研究科複合領域科学専攻博士課程（経営学）を経て、現在、神戸松蔭女子学院大学にて研究等の活動を行う。最近の活動では、近畿日本ツーリスト、JR 西日本、神戸の洋菓子店「レーブドゥシェフ」への「食品」、「観光」等に関する企画提案やブランドの立ち上げ。著書・論文等については、「地域ブランドづくりと地域のブランド化ーブランド理論による地域再生戦略ー（共著）」、「バーモントカレーとポッキーー食品マーケティングの深層ー（共著）」、「西陣織におけるブランド・マネジメントが抱える課題（論文）」など多数の実績を持つ。

(3) 事例発表

【内容】

「食品」や「観光」の地域産業資源を活用し事業活動を展開する「地域産業資源活用事業計画認定事業者」から、その取組内容や苦労した点や成功秘訣のエピソードなど、様々な体験事例などについてご発表いただきました。

【主なご発表内容（15分）】

- 1) 取組内容と特徴（5分）
- 2) 苦労した点や成功秘訣のエピソード（8分）
- 3) 今後の展開（2分）

①「食品事業者」の事例紹介

発表者①：大徳醤油株式会社（兵庫県養父市、平成 27 年認定）

【地域産業資源】ホタルイカ、チョウザメ、カレー、ベニズワイガニ、エビ

【事業名】但馬産のホタルイカ等の魚介を活用した天然醸造方式による安全・安心な魚醤の開発・製造・販売

発表者②：株式会社伊藤農園（和歌山県有田市、平成 22 年認定）

【地域産業資源】温州ミカン、いよかん、はっさく、ユズ、三宝柑、なつみかん

【事業名】紀州有田の柑橘類の皮を活用したピール（果皮調整品）等の開発・製造と販売

プログラム

②「観光事業」の事例紹介

発表者③：株式会社とと屋（京都府京丹後市、平成 26 年認定）

【地域産業資源】山陰海岸ジオパーク、丹後の海岸

【事業名】未知なる海の京都・丹後海岸の魅力をマイスターが直伝
「丹後マイスターツーリズム」の開発・提供

発表者④：斑鳩産業株式会社（奈良県斑鳩町、平成 30 年認定）

【地域産業資源】世界遺産「法隆寺地域の仏教建造物（法隆寺・法起寺）」

【事業名】世界遺産のまち斑鳩町に滞在する

「おとな修学旅行 Educational Travel」の開発・提供

（4）パネルディスカッション

テーマ：『地域産業資源の魅力と課題、新たな展開に向けて』

モデレータ：青谷 実知代 氏 / 神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 都市生活学科 准教授

パネリスト：大徳醤油株式会社、株式会社伊藤農園、株式会社とと屋、斑鳩産業株式会社

【内容】

地域産業資源を活用した事業の更なる創出や事業拡大に向けて、地域産業資源の魅力を改めて再認識するとともに、地域産業資源の活用事業を成功させるために必要な課題点を洗い出し、今後より多くの成功事業者を創出するためにお話いただきました。

【議題と進行方法】

各議題：3 議題 × 15 分（パネリスト 4 名×3 分、モデレータ 3 分）

総括：5 分

議題 1：「地域産業資源活用の魅力」

- ・地域産業資源の活用に取り組んで良かった点は?!

など

議題 2：「地域産業資源の課題と成功に導く要素」

- ・なぜ多くの地域産業資源活用事業が拡大に悩むのか?!
- ・地域産業資源活用事業の成功に導く要素がどこにあるのか?!

など

議題 3：「関西発！地域ブランドの今後の新たな展開」

- ・関西から地域産業資源や地域ブランドを発信するためにどのような取組が必要か?!
- ・パネリストが自身の事業展開を進めて行くうえでどのようなことを重視しているか?!

など

総括：モデレータによる総括

（5）施策説明

説明① 太田 文隆／近畿農政局経営・事業支援部 地域連携課 輸出証明支援係長

説明② 井澤 智義／近畿運輸局 観光部 観光地域振興課 課長補佐

説明③ 増井 浩行／近畿経済産業局 産業部 産業振興室 調査官

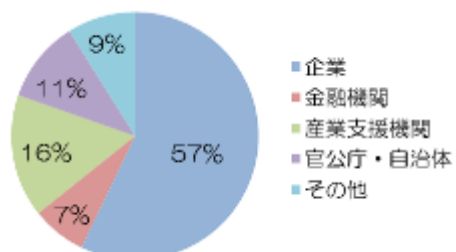
説明④ 坂本 りっか／近畿経済産業局 通商部 国際事業課 国際交流調整官

参加者リスト

■所属分類ごとの人数

企業	金融機関	産業支援機関	官公庁・自治体	その他	合計
32人	4人	9人	6人	5人	56人

■所属分類ごとの人数の割合



当日風景（セミナー）

■開会挨拶



来場者アンケート

■アンケート調査票（裏面）

Q5 その他、本日の感想、地域産業資源活用事業計画認定事業（食品・観光案件）に関するご意見、関心のある支援策等、ご要望がありましたらご記入下さい。

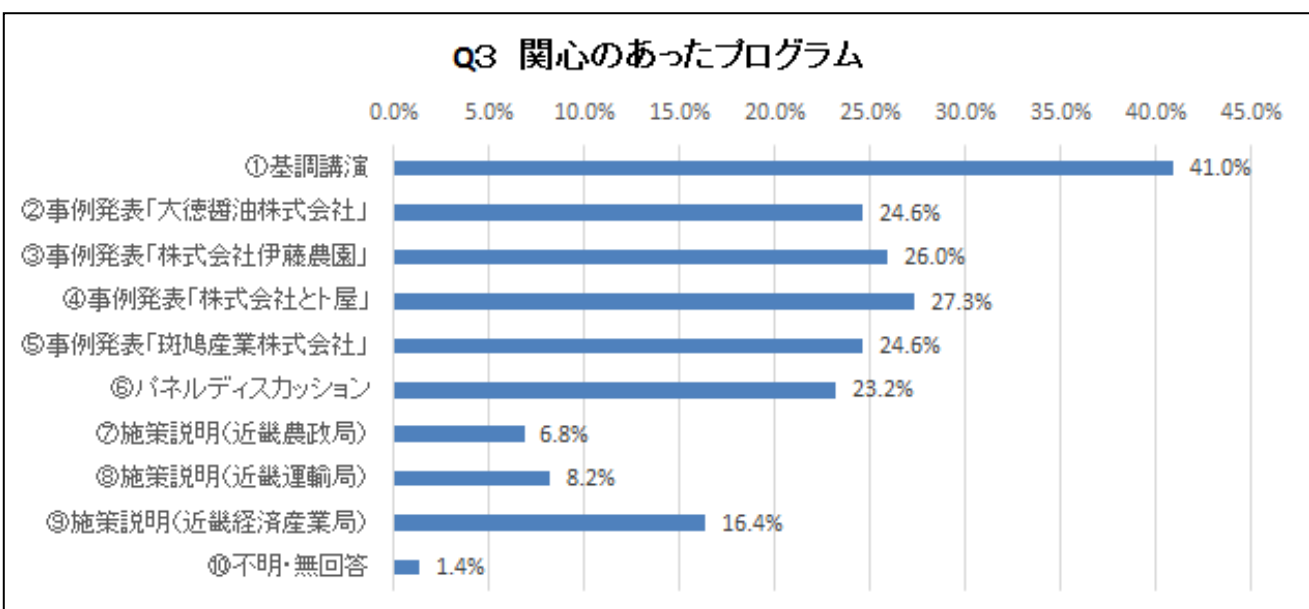
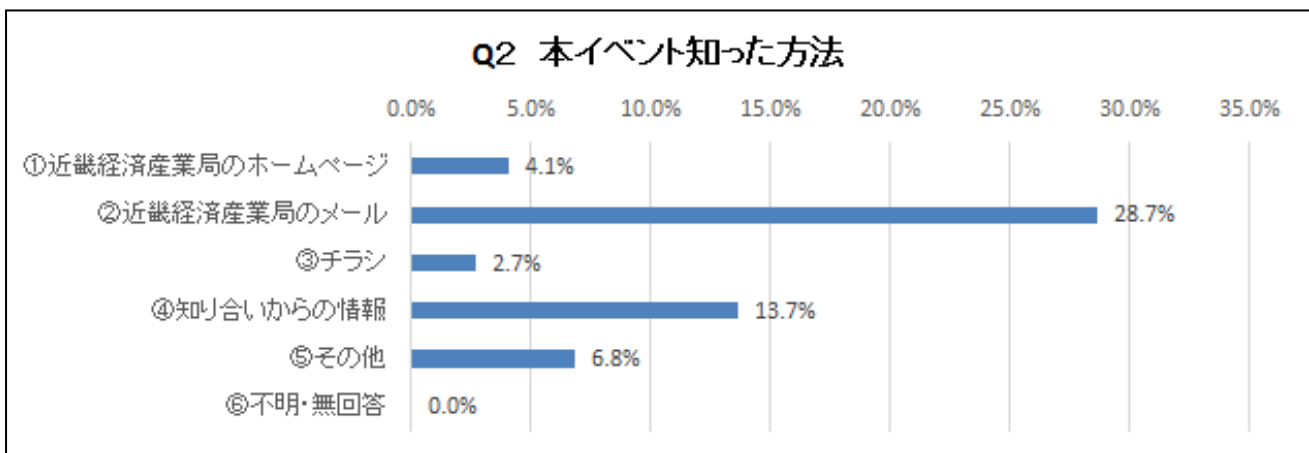
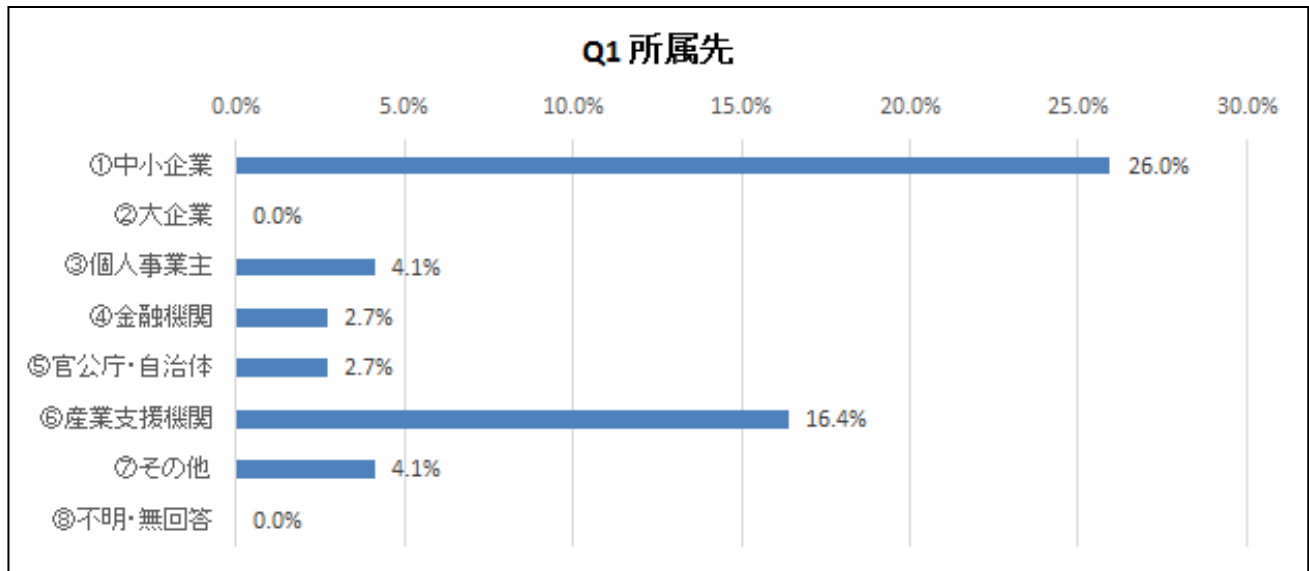
【自由記述】

以上、御協力ありがとうございました。

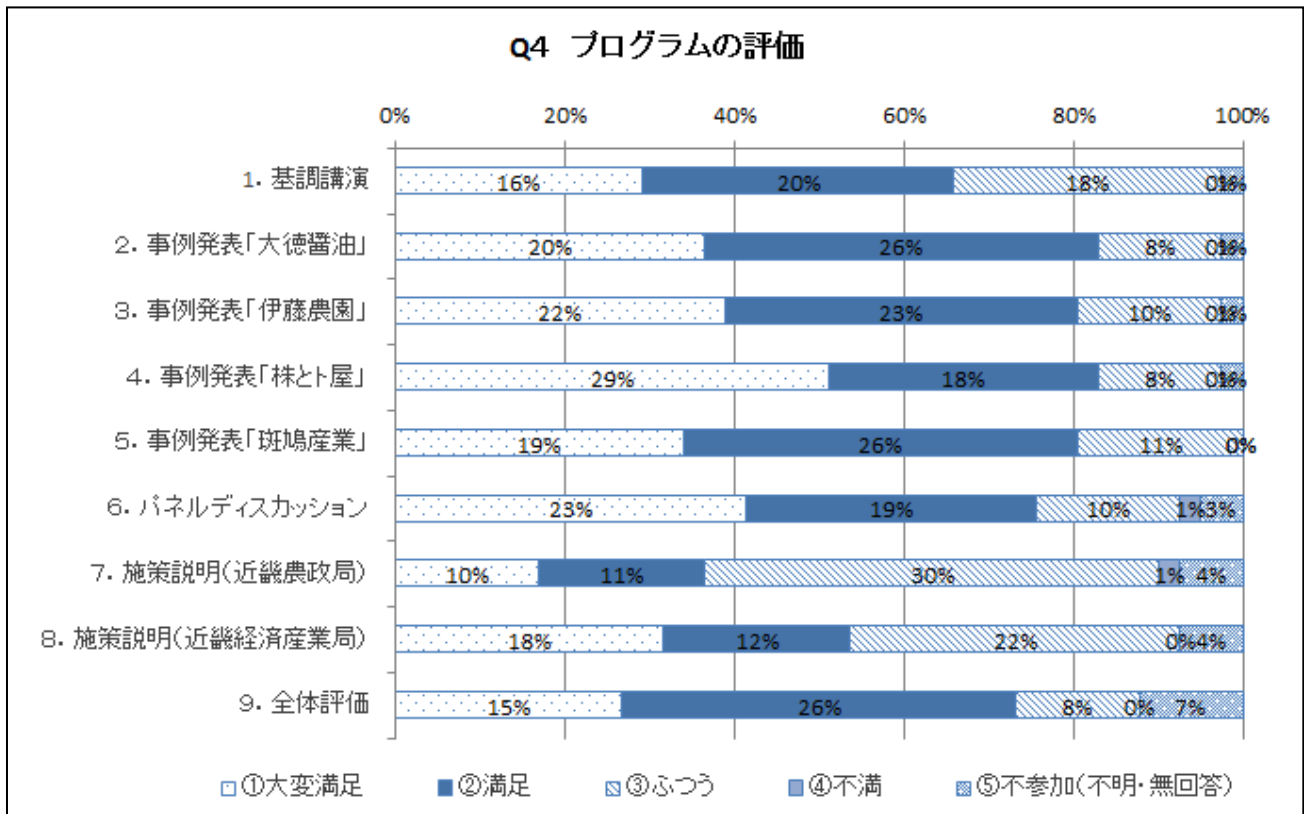
来場者アンケート

■アンケート結果

配布数：56名 回収率：41名 回収率：73%



来場者アンケート



Q5 ご意見・ご感想

事例発表では、努力されてきた事例の生の声や地域の連携についての内容が興味深く、為になった。
 施策説明では、端的に説明されており、よく分かった。
 今後も宜しくお願いします。

観光事業単体での売上でその事業の評価ができないため、観光事業と本業をセットにして認定する考え方が望ましいと思う。(飲食業+観光など)

改めて企業からの地域への愛情を感じた。それがモチベーションの大きな要素だと思った。

事例発表は自社のPR色が強すぎる感じがかり、ブランディングの本質を照らした話とは掛け離れてしまっていた。スピーカーは時間配分に留意し、メリハリの効いた話し方に努めるべきだ。

大変勉強になった。皆様の話を聞いて、地域をどう巻き込んで我々の産業を発信していくべきかを考える良い機会となった。

タイムキーパーを設けるなど、改善してほしい。

補助金による支援を受けて各事業の推進力が増加した点については評価したい。一方で、行政は補助金の効果を表面的に追うよりも、人材育成や地方の意識改革といった効果がある事をもっとアピールしてもらいたいと思う。本来であれば施策事例のような活動が「補助金」なしで推進・継続される社会となる事を期待している。

今後も実際のモデルケース等を紹介してもらうようなセミナーを開催していただきたい。

平成 30 年度
関西における地域産業資源活用事業計画認定事業
(食品・観光案件) を対象とした新たな中小企業支援モデルの検討調査

報 告 書

<受託先>

アルパック 株式会社地域計画建築研究所
〒600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町 82
TEL: 075-221-5132 TEL: 075-256-1764
